

全国学力学習状況調査の結果と今後の取組

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」として、平成30年4月17日（火）、3年生を対象に、「国語・数学・理科に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施しました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたのでお知らせします。霧丘中の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にいただければ幸いです。なお、本調査により測定できるのは学力の特定一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指していきます。

★ 調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	全国平均との比較及び分析
国語A（主として知識に関する）	全国平均を下回っている。	全体的に無回答率は低かった。基礎的な漢字の問題や、適切な語句を選ぶ問題はよくできていた。構成を考えて適切な文を書くことに課題が見られる。
国語B（主として活用に関する）	全国平均を下回っている。	「話すこと・聞くこと」の領域については、全国平均に近い正答率であった。相手に的確に伝わるように、あらすじをとらえて書く問題の正答率は全国平均を上回っていた。場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する問題に課題が残った。
数学A（主として知識に関する）	全国平均を下回っている。	全国平均に比べ無回答率が高かった。資料の活用の領域については全国平均を上回っていた。特に相対度数に関する問題では、全国平均正答率を10ポイント以上上回った。等式の変形に課題が残った。基礎的な計算技能の定着に向けた取組が必要である。
数学B（主として活用に関する）	全国平均を下回っている。	全国平均に比べ無回答率が高かった。特に確率に関する問題の正答率が低かった。しかし、関数の領域および数と式における正答率が高い傾向にある。資料の活用の領域において確率を求めること、確率を用いて起こりやすさの判断をする理由を述べる問題に課題が残った。
理 科	全国平均を下回っている。	要因間のつながりを指摘する場面の実験計画と技能において、全国平均を10ポイント以上下回った。震度が地震の揺れの強さであることと、S波による揺れが主要動であるという二つの知識は身につけている。電流計の接続に関する知識について課題が残った。

【質問紙調査の結果分析 学習状況・家庭学習習慣に関する調査結果の分析】

- 学習習慣は全国平均を上回っているが、「自分で計画を立てる」という項目が下回っている。家庭学習ノート「霧中ノート」の活用が定着してきたが、課題を与えられないと実行できないのが現状である。「家庭学習の手引き」などの活用も視野に入れなくてはならない。
- 生活習慣では起床時間が不規則であるため、「朝食を毎日食べている」割合が全国平均を下回っている。スマートフォンや携帯電話等の使用で、就寝時間が遅くなっていることも考えられるため、生徒会活動とも連動しながら指導をしていきたい。
- 「地域や社会への関心」では、地域の行事に参加する割合が全国平均を下回っている。1年生の時には地域の方と共に地域清掃を全員が経験したり、部活動や生徒会活動などでは地域との積極的な交流を図っているものの、一般生徒としての認識には差があるようである。今後、校区青少年育成協議会や市民センターとも連携し、地域とのかかわりを学校ぐるみで整理・模索していく必要がある。

【課題解決のための重点的な取組(教科)】

〈実態調査より〉

国語 B では、「場面展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」力が弱いので、教科書だけでなく、他の読み物教材などを準備し、しっかり読み深めさせ、様々な場面を通して登場人物の心情や内容が理解できるようにしたい。その際、書く作業や話し合いなどを取り入れ、さらに理解力が高まるように努力したい。

数学 A では、「数と式」における計算技能に課題が残ったので、朝自習や授業の中で反復して計算の練習を行い、技能の定着を図りたい。その際、計算の途中式を書かせてより簡単に計算する方法や他の解き方を考えさせ、様々な数学的な見方・考え方も養えるようにしていきたい。

理科では「実験計画の立案」と「電流計の接続に関する知識」に課題があるので、実験レポートを白紙の状態から作成する練習を繰り返し行いたい。また、「要因間のつながり」の意識が低いので、比較や対照実験に関する実験も立案する練習も行いたい。

◎言語活動の充実とわかる授業の実施に関する取組の推進

- ・学力・体力向上委員会を全職員で組織し、組織的かつ円滑に取組を推進する。
- ・学力・体力向上に関するアンケートを生徒および職員に実施し、実態の把握に努め授業改善を図る。
- ・霧丘中学校の授業五則を周知・徹底させ、授業規律の確立を図る。
- ・毎時間の授業において、「めあて」と「まとめ」のカードを活用し、授業内容の確認および振り返りを行うよう努力する。
- ・話し合い活動を積極的に取り入れ、その際にホワイトボードを活用し、考えをまとめ、それを共有できるように努める。
- ・各教科における ICT 機器の活用をさらに促す。

◎学力向上のための取組時間の実施

- ・授業力向上週間を設定し、授業改善シートを用いて職員相互の授業見学及び意見交換をすることで、その後の授業改善につなげる。
- ・各学年とも、放課後質問教室を設けて、学習内容の定着を図る。
- ・定期考査前に総合や裁量の時間を使い、実力の養成を図る。
- ・英検・漢検の実施。

◎言語活動の活性化

- ・自主学習ノート「霧中ノート」(毎日1ページ家庭学習をするノート)を活用し、家庭学習の定着および「書く」学習習慣の確立に取り組む。
- ・全校生徒にボランティアによる読み聞かせを実施し「聞く」能力と態度を育成する。

【課題解決のための重点的な取組(家庭生活習慣等)】

〈実態調査より〉

傾向として、家庭学習の計画の方法が不十分である。そして、勉強と部活動の両立や携帯電話の利用の仕方および使用頻度について考えていくことが必要である。

◎学習習慣の定着に向けての取組

- ・自主学習ノート「霧中ノート」(毎日1ページ家庭学習をするノート)を活用し、家庭学習の定着および「書く」学習習慣の確立に取り組む。
- ・定期考査前に「予想問題」や「学習計画」などに取り組ませる。
- ・小学校と連携し、新入生に「春休みの宿題」を取り組んでもらい、学習習慣づくりにつなげる。(入学式後、4月中旬に「春休みの宿題確認テスト」を実施する。)

◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校便り「われら若者」を月2回発行する。
- ・学年通信・学校ホームページで学校の実態を保護者・地域に広報する。

◎基本的な生活習慣の確立

- ・生徒会が主導する「早寝・早起き・朝ご飯」運動や「ケータイ・スマホ夜10時電源オフ」運動を保護者や地域とも連携しながら進める。
- ・家庭科や保健体育など様々な場面で、規則正しい生活習慣の在り方についてふれていく。